

芸能

97歳青木十良 自尊の響き追う



今月12日に満97歳の誕生日を迎えたチェリスト青木十良。その90代の日々を追ったドキュメンタリー映画「自尊を弦の響きにのせて」(藤原道夫監督)が28日〜8月10日、大阪・第七芸術劇場で上映される。

青木は1915年生まれ。専門教育をほとんど受けずチェリストとなり、80代からバッハの無伴奏チェロ組曲に取り組み始めた。「シャパンの泡がはじけるように、さわやかな音が空間にふわっと広がる」。

チェリストの日常、映画化

「そんな境地を90代にしてなお目指す青木の日々を、映画は追っている」。

かつてオーケストラ奏者と歌手として出会った宮城まり子・ねむの木学園園長との60年ぶりの再会や、森悠子率いる長岡京室内アンサンブルとの共演、大阪出身の若手チェリスト堀江牧生の演奏に耳を傾ける場面が登場する。体調不良を乗り越え、2009年に無伴奏組曲第4番をCD用に録音するまでを描く。

タイトルに冠した「自尊」とは、「チェロを通じ、人間の尊厳を表現したい」と語る青木が好んで使う言葉だ。音楽に求め続けてきた「エレガンス」の根底にある感覚という。穏やかな語り口に、人生を貫く強い思いがのぞく。

(佐藤千晴)